

麻酔準備チェックリスト Ver 1.0 (2011. 8)

全身麻酔・局所麻酔にかかわらずチェックしましょう！

麻酔器の始業点検は？ → チェックリストは裏面へ！

CAN 立ち上げ

- ・入室時の画面にしておく

気管挿管セットの準備は？

- ・喉頭鏡: ブレードサイズ、ライトの明るさ
- ・カフ用注射器、バイトブロック、エアウェイ、キシロカインスプレー、固定用テープ、マギール鉗子
- ・挿管チューブ: サイズは適切か、カフ漏れがないか？ 先端は清潔に！
- ・スタイレット: チューブの先端からはみ出ないように。
- ・チューブの潤滑剤: 大人はキシロカインゼリー(アレルギーの人は KY ゼリー)、小児は生食で！

その他 気道確保の準備は？

- ・人工鼻、マスク 必要時は LMA、AWS、気管支ファイバーなど

吸引は確認した？

モニターのアラームは設定した？

ガスモニターの電源は入れた？

BIS モニターの準備は？

温度計は準備した？

人工呼吸器の設定 & アラームは？

薬剤持続投与の準備は？

- ・シリンジポンプ延長チューブのセット、薬剤ラベルは貼った？

その他の物品は？

- ・聴診器、メパッチ、胃管、カテーテルチップなど

安全な麻酔を心がけましょう！

患者さんの入室までに通る行うこと！

① 補助ポンベの点検

補助ポンベ(酸素)のコックを開け圧が上がること、流量が5L/min流れることを確認する。

① 中央配管によるガス供給

ホースアセンブリを点検する。(目視、接続、モレのないこと)

ガス供給圧を確認する。 $O_2: 4 \pm 0.5 \text{ kgf/cm}^2 = 392 \pm 49 \text{ kPa}$ ($1 \text{ kgf/cm}^2 = 98 \text{ kPa}$)

Air・N₂Oの圧はO₂供給圧より約0.3 kgf/cm²低い

純N₂O供給防止装置を確認する。

(O₂とN₂Oとを3L/minで流し、O₂流量を減量→offと同時にN₂O流量も減量→offとなること)

② 気化器

注入栓をしっかり閉め内容量を確認、Offの状態ではO₂を6L/minで流し匂いのないことを確認する。

ダイアルが円滑に作動することを短時間で確認する。

③ 酸素濃度計

センサーをAirで21%に較正する。O₂フラッシュでセンサーの濃度が上がることも確認する。

③ CO₂吸収装置

CO₂吸収薬の色、量、カートリッジにずれがないことを目視・触知する。

装置左側の水抜き孔のネジが閉鎖していることを確認する。

④ 回路の組み立て

回路の吸気・呼気の方角、接続部を確認する。

⑤ リークテストおよびO₂フラッシュ機能

回路圧上限アラーム(麻酔器モニター内)を30cmH₂Oに設定する。

APLバルブを閉め、患者呼吸回路先端を閉塞する。

O₂を6L/minで流し回路内圧を30cmH₂Oまで上昇させ、10秒間保たれることを確認する。

(モレの音の有無、回路内高圧持続アラームが作動することも確認)

O₂フラッシュが作動することを確認する。

⑥ 患者呼吸回路のガス流

テスト肺(0.5L青バッグ)で先端をふさぎ、膨らんだバッグをもんで吸気・呼気弁の動きを確認する。

⑦ 人工呼吸器とアラーム確認

人工呼吸器の作動を確認する。

テスト肺を外して回路内低圧アラーム(‘ベローズガスなし’)を確認する。

⑧ 余剰ガス排除装置

麻酔器から出ている余剰ガス回路の目視と接続を確認する。

余剰ガス排除装置の流量が20~30L/minであることを確認する。

(天井の余剰ガス排除装置に接続した場合も右側壁の排除装置の作動を確認)

最終チェックはウラへ↓